



K.Miura

THE TOKYO JUMP STAKES

第27回 東京ジャンプステークス (J・GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 30,000,000円 12,000,000円 7,500,000円 4,500,000円 3,000,000円
付加賞 420,000円 120,000円 60,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳58^{kg}・4歳以上60^{kg}、牝馬2^{kg}減、J・GⅠ競走1着馬2^{kg}増、J・GⅡ競走1着馬1^{kg}増

2025.6.14 東京 曇・良 芝3110m (混合)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナ ー通過 順位	平均 1ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師
1	⑦	ジュンペロシティ	牡	7	61	高田 潤	3:25.2	2-2-1-1	13.2	470(±0)	1.6①	武 英智(栗東)
2	④	サイド	騾	6	60	小牧加矢太	1 ¹ / ₄	5-5-4-4	13.2	502(+6)	3.7②	角田晃一(栗東)
3	⑪	スヴァルナ	騾	10	60	井上敏樹	7	7-7-6-6	13.3	506(-6)	140.5⑩	池江泰寿(栗東)
4	⑤	ロスコフ	牡	7	60	草野太郎	クビ	2-3-4-4	13.3	502(-2)	6.3③	久保田貴士(美浦)
5	⑩	ウインチェステ	牡	7	60	小野寺祐太	7	8-7-7-7	13.4	516(+8)	53.8⑦	畠山吉宏(美浦)
6	②	フォージドブリック	牡	4	60	大江原主	クビ	6-6-7-8	13.4	538(-10)	73.6⑧	西田雄一郎(美浦)
7	⑨	デシマルサーガ	牡	5	60	江田勇亮	1/2	4-3-2-3	13.4	470(±0)	271.1⑫	粕谷昌央(美浦)
8	③	ブラチナドリーム	牡	6	60	石神深一	3	10-9-10-10	13.4	484(+8)	116.4⑨	菊川正達(美浦)
9	⑧	プリエヴェール	牡	7	60	金子光希	クビ	11-11-9-8	13.4	464(+4)	30.3⑤	小笠倫弘(美浦)
10	⑫	サクセスバラード	牡	5	60	伴 啓太	1/2	12-12-11-11	13.4	474(+4)	32.1⑥	竹内正洋(美浦)
11	⑥	ダイシンクローバー	騾	9	61	上野 翔	大差	8-9-12-12	13.7	504(+18)	114.8⑨	戸田博文(美浦)
12	①	ホッコーメヴィウス	騾	9	60	難波剛健	1-1-2-2		474(+2)	12.5④	清水久詞(栗東)	

単勝⑦160円(1^{1/2}) 複勝⑦110円(1^{1/2}) ④120円(2^{1/2}) ⑪860円(11^{1/2}) 枠連④-⑥260円(1^{1/2})

馬連④-⑦280円(1^{1/2}) ワイド④-⑦150円(1^{1/2}) ⑦-⑪2,150円(24^{1/2}) ④-⑪2,890円(29^{1/2})

馬単⑦-④400円(1^{1/2}) 3連複④-⑦-⑪7,340円(23^{1/2}) 3連単⑦-④-⑪16,140円(50^{1/2})



上り1マイル: 1:43.8

上り: 800^{kg} 600^{kg}
51.5 - 38.8

アラカルト

- ・高田潤騎手はジュンペロシティで制した24年に続く東京ジャンプS4勝目(01年東京オートムジャンプ含む)。JRA重賞は本年3勝目、通算26勝目
- ・武英智調教師はジュンペロシティで制した24年に続く東京ジャンプS3勝目。JRA重賞は本年初勝利、通算13勝目
- ・ロードカナロア産駒はJRA重賞通算86勝目
- ・7歳馬の勝利は22年ケイティクレバーに続く通算5回目
- ・単勝160円、複勝110円、枠連260円、馬連280円、ワイド150円、馬単400円は各形式別における本競走の最低払戻金額
- ・ホッコーメヴィウスは9号障害(ハードル)着地時につまずき、騎手が落馬したため競走中止

ジューンベロシティ *June Velocity*

牡 青鹿毛 2018.4.10生
北海道浦河町 ヒダカファーム生産
馬主・吉川潤氏 栗東・武英智厩舎
馬名意味・冠名+速度

		デビルズブライドUSA系 F10-e
ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo
		マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat
		サラトガデュースUSA
アドマイヤサブリナ 芦毛 2010	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S.
		Tee Kay
	ツインクルヴェール 芦毛 2001	サンデーサイレンスUSA
		ツインクルブライド

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5 Hail to Reason M5×M5

INTERVIEW

近藤光将専務(ヒダカフアーム)

充実期を迎えたと思えるほどの強さでした

東京コースは得意なので期待はしていましたが、充実期を迎えたと思えるほどの強さでした。前走からここまで立て直してくださった武英智厩舎の皆さんに感謝いたします。中山競馬場では求められるものが違うとは思いますが、また暮れの大一番を目指して頑張っています。今年生まれた弟は雰囲気があって早栄えも早い馬なので、こちらにも期待しています。

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央、香19戦13勝(香港スプリント^G₁2回、安田記念^G₁、スプリンターズS^G₁2回、高松宮記念^G₁)、年度代表馬、最優秀短距離馬2回、14年から供用。20~24年日本リーディング2位
〔代表産駒〕**アーモンドアイ**(ジャパンC^G₁2回、ドバイターフ・首^G₁、天皇賞(秋)^G₁2回、牝馬三冠)、**サートゥルナーリア**(皐月賞^G₁、ホープフルS^G₁)、**ダンスマッシュ**(香港スプリント^G₁、高松宮記念^G₁)、**パンサラッサ**(ドバイターフ・首^G₁、サウジC・沙^G₁)、**ペラジオオペラ**(大阪杯^G₂2回)、**ステルヴィオ**(マイルチャンピオンシップ^G₁)、**サトルーヴ**(高松宮記念^G₁)、**ファストフォース**(高松宮記念^G₁)、**ブレイディヴェン**(エリザベ女王杯^G₁)、他に重賞勝ち馬多数

母アドマイヤサブリナ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央30戦3勝(桑名特別)

ジューンパロシティ 本馬(18 牡父ロードカナロア)中央22戦2勝、障害17戦7勝(東京ハイジャンプJ・C_{II}、東京ジャンプS J・C_{III}3回、阪神ジャンプS J・C_{III}、中山グランドジャンプJ・C_I2着、阪神スプリングジャンプJ・C_{II}2着)獲得総賞金305,917,000円

ジュノンオレンジ(20 牝父ジャスタウェイ)中央22戦4勝(白秋S、下北半島特別、ディセンバーS・L2着、フィリーズレビュー^{GⅡ}3着、ポートアイランドS・L3着)㊦

ジュンテイク(21 牡父キズナ)中央13戦3勝(京都新聞杯^{GⅡ}、こうやまき賞、神戸新聞杯^{GⅡ}2着、すみれS・L2着)**現**

ジューンセレッソ(22 牝父ドレフォンUSA)中央3戦0勝⑨
(25 牝父キタサンブラック)

※19、23、24(不受胎)

祖母ツィンクルヴェール

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央2勝。19年用途変更

トーセンヴェール(09 牝父クロフネUSA)中央0勝、地方1勝、トーセンガ
ーネット(東京プリンス賞、桜花賞、ニューイヤーク、関東オークス
J_nⅡ3着、NAR3歳最優秀牝馬)、カイル(東京ダービー、金盃)の母
アドマイヤサブリナ(10 前出)

曾祖母ツィンクルブライド

北海道早来町 社台ファーム生産 中央2勝(桜花賞^{G₁}2着、ポートアイランド^{S^o}3着)、11年死亡、**パールギント**(デイリー杯2歳^{S^G}_{II}、シンザン記念^{G_{III}}、高松宮記念^{G₁}2着、種牡馬)、**フェリシタル**(京成杯^{G_{III}}3着)の母、**ミッキースワロー**(日経賞^{G_{II}}、セントライト記念^{G_{II}}、七夕賞^{C_{III}}、種牡馬)の祖母



A. Takeda

過去を上回る勝ち時計で3連覇の快挙

暑熱対策の一環として、今年は午前11時45分発走の第4競走に組まれた東京ジャンプSには、前2年の覇者、ジューンペロシティが参戦。障害軍賞4勝の実績を誇る7歳馬は、小倉ジャンプSの2着馬サイド、クビ差の2着に敗れた昨年の雪辱を期すロスコフらに従え、圧倒的な支持(単勝1.6倍)を集めた。結果的にも同馬は横綱相撲といえる内容で快勝。3連覇の快挙を達成するとともに、さすがの底力を改めて印象付けた。

イの高田潤騎手はこれを先に遣り、2番手につけてレースを運ぶ。1周目の4コーナーではロスコフがその外に並びかけ、2頭が好位を併走。一方のサイドは直後のインに腰を落ち着け、進出のタイミングを窺った。

重賞仕様にバージョンアップされたスタンシド前の連続障害を無難にクリアし、2周目の向正面に差し掛かると、高田騎手是他馬の機先を制して仕掛け、早くも先頭に躍り出る。無理に競り合わず、2番手に控えたホツコーメヴィ

10カ月の長期休養明けながら、実績はヒケを取らない重賞4勝馬ホッコーメヴイウスが好スタートを切って飛び出し、先手を奪取。ジューンペロシテ

ウスは直線の最終障害で落馬し、競走を中止。かわって追い込んできたサイードも最終障害の飛越後に開かれたリードをなかなか縮められず、ライバルたちを引き連れて悠々と風を切ったジューンパロシティがそのまま危なげのないフイニッシュを決めた。

前走の中山グランドジャンプではエ
コロデュエルの早めの仕掛けに真つ向
から張り合い、4着に敗れた本馬。激
闘の反動が常以上に大きかったうえ、
宝塚記念と同様、レースの日程が2週
間繰り上げられた今年は、リカバリー
に充てる期間も短かった。そのため「ま
だ良化途上の段階で、万全には程遠い
状態でした」と高田騎手は明かすが、
終わってみれば前2年(ともに3分26
秒5)より1秒以上速い勝ちタイムを
記録して3連覇を達成。念願のJ・G
I制覇に挑む秋に向け、大きく弾みを
つけた。